

事業名	いじめ・不登校対策事業費			調査番号	101
細事業名	保護者のための不登校研修会開催費	財務コード	382902		
担当部課室	教育委員会	義務教育	課しなやかな心の育成 担当 (内線)	8203	

事業の概要

実施期間	始期 H11 年度 ~ 終期 年度			
実施主体	県(直営)			
目的	<table border="1"> <tr> <td>だれ(何)を対象に 子供の不登校傾向や問題行動、子育て等に悩んでいる保護者</td> <td>その対象をどのような状態にして 臨床心理士による講演と保護者相互の情報交換をとおして、子供への関わり方を学ぶことができる</td> <td>結果、何に結びつけるのか 保護者の悩みの軽減と、子供の不登校傾向や問題行動などの改善</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に 子供の不登校傾向や問題行動、子育て等に悩んでいる保護者	その対象をどのような状態にして 臨床心理士による講演と保護者相互の情報交換をとおして、子供への関わり方を学ぶことができる	結果、何に結びつけるのか 保護者の悩みの軽減と、子供の不登校傾向や問題行動などの改善
だれ(何)を対象に 子供の不登校傾向や問題行動、子育て等に悩んでいる保護者	その対象をどのような状態にして 臨床心理士による講演と保護者相互の情報交換をとおして、子供への関わり方を学ぶことができる	結果、何に結びつけるのか 保護者の悩みの軽減と、子供の不登校傾向や問題行動などの改善		
内容	・県内4会場で「思春期の子どもと向き合う保護者のためのセミナー」を開催する。(臨床心理士による講演と保護者相互の交流会開催) 第1回 6月11日(木) 荏崎市こすもす教室 第2回 6月16日(火) 甲府市青少年センター 第3回 6月18日(木) 南アルプス市役所甲西支所 第4回 6月30日(火) 富士吉田市民会館			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
活動指標	セミナーへの参加者(人)	目標	88	88	96	96	96	97
		実績(見込)	78	96	92	76	97	94
		達成率	88.6	109.1	95.8	79.2	101.0	
		達成区分	b	b	b	c	b	
成果指標	参加者アンケートで「参考になった」「どちらかといえば参考になった」と回答した割合	目標	100	100	100	100	100	100
		実績(見込)	96	98	99	97	99	99
		達成率	96.0	98.0	99.0	97.0	99.0	
		達成区分	b	b	b	b	b	
決算(予算) 単位:千円		110	116	248	112	113	123	123

事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	
成果指標	b		臨床心理士による講演、保護者相互の交流会とともに、参加者の満足度は高く、意図した成果をほぼ上げている。

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

見直しの必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他( )		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない
	説明	急激な成果の向上は望めないが、継続して実施することで、保護者の悩みの軽減とともに、不登校や問題行動等の改善につながる。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他( )		
その他	説明			
見直しの必要性	無	現行の実施方法により、不登校等で悩みを持つ児童生徒の保護者のニーズに応え、今後も成果の向上が期待できるため。		

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明	
-------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。